

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

# いい人・いい音

財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第 17 号

2012年1月5日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団  
編集：専務理事 小船井 正浩  
住所：〒160-0023  
東京都新宿区西新宿1-9-1  
TEL:03-3349-6194  
FAX:03-3345-6388  
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

## 人から人へ、心から心へ音楽を通して

ピアニスト・東京藝術大学音楽学部長

### 植田 克己

(当財団音楽分野選考委員)



昨年2011(平成23)年は3月11日の東日本大震災の未曾有の災害によって、我々の脳裏に凄まじい記憶が切り刻まれる年となってしまいました。被害に遭われた方々と関係者の皆様には心からのお見舞いとお悔やみを申し上げ、併せて一日も早い復興をお祈り申し上げます。また原発の事故による不安はずっと消えないまま年を越しますが、残念ながらこれらによる余波は当分収まることがないと思われまます。

震災直後の混乱は日常生活にはもちろん、音楽を取り巻く世界にも大きな打撃を与えました。演奏会の中

止、変更の数は知れず、外国からの公演中止も相次ぎました。ほんの一例ですが、川崎のコンサートホール内の無残な姿の写真は、もしもこれが演奏会の最中であつたならどんなに犠牲が大きかったことか、あの日に九段会館ホールで犠牲者が出たことはとても他人事とは思われません。近くは1995年の阪神大震災の被害の大きさと人々に与えた衝撃や、自然災害ではありませんが戦後の焼け野原状態と人々の放心状態すら思い起こしたほどです。また日本近海の地殻変動についても歴史を過去に遡って検証され、我々にもその解説が届けられ続けています。

こんな中で音楽どころではないという率直な感情、あるいはこういう時だからこそ音楽を通してできることをしようではないかとの強い思いがどの音楽家にも去来したと思います。たくさんの方のコンサートを通じて多くの募金が寄せられましたし、世

界の仲間からも支援の手、応援の声が多数寄せられました。失われたり、損傷した楽器の補填や修理を応援する動きも各地で起きています。9ヶ月経つても劇的な回復が目に見えるようにはまだまだ為されていませんが、目を前に向けて少しずつ歩き始めています。被災された方々への思いやりと共に、自身の心の平安への問いかけが強く芽生えてきました。人から人へ、心から心へ音楽を通してメッセージを届ける。普段何気なく接しているその考えをさらに見つめ、長期間に亘るであろう復活に関わって行くようではありませんか。

「海外音楽研修生費用助成」の  
二〇二二年度申込受付を開始

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去21年間の助成対象者数は、合計150名です。

二〇二二年度は、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主に音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」をご覧いただき、4月20日（金）までにお申し込み下さい。

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨  
わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 原則として音楽大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者
- ・ 声楽は一九七九年九月一日以降、器楽は一九八四年九月一日以降に生まれたる方。
- ・ 海外留学についての計画

- ・ と目標が明確である方
- ・ 二〇二二年から二〇三三年十二月末までに入学が可能な方
- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方
- ※既に海外に留学中の方も対象になります

3. 助成対象人員

- ・ 4名程度
- 4. 助成金額  
・ 年額200万円
- ・ 助成期間は原則2年

申込手続書類等

1. 申込書

- ・ 所定用紙による。

2. 推薦書（2通）

- ・ 2名の方の推薦が必要。
- ・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名。

3. 録音資料および録音証明書

(1) 録音資料

- ・ 録音時間10分間程度の

MD（Hi-MDは除く）を提出のこと。

- ・ 最近半年以内に録音された演奏であること。
- ・ 応募者本人の演奏が明確に聴き取れる録音状態であること。（同一楽器による二重奏等、個々の演奏者を識別しにくい録音は審査の対象外）
- ・ MDは録音した曲目の楽曲構造に応じて、ディスクに分割点をマーク（クリック）し経過時間を記入願います。

(2) 録音証明書

- ・ 応募者本人の演奏であることを、伴奏者（個人または団体）、演奏会主催者、録音スタジオや録音エンジニア等の録音に立会った関係者が書面により証明のこと。
- ・ 証明書には、次の項目を必ず記入のこと。①演奏者氏名、②録音日時、③録音場所、④曲目、⑤証明者の住所と電話番号、⑥証明書作成日、⑦証明者本人の署名。

日程

1. 申込期限  
・ 4月20日（金）必着（申込書類は簡易書留便による郵送を原則とします）

2. 選考日程

- ・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は5月上旬
- ・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月27日（日）
- 【開催地 東京・新宿】
- 3. 結果発表  
・ 6月上旬

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ  
([www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp](http://www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp)) を参照下さい。

# 海外音楽研修生レポート

「日本人の歌い手として」



(09年助成・声楽)  
盛田 麻央  
(留学先・パリ国立高等音楽院)

昨年9月末。2年間のフランス留学生活に終止符を打ち帰国。今振り返って見ると、なんとという早さだったのだろうと驚きます。フランスは、ドイツやイタリアに比べると声楽で留学をしてきている学生は少なく、パリに住んでいけば、大体パリ在住日本人歌手の名前はどこからか耳に入ってきます。しかし私の通った学校には、ピアノや楽器の日本人生徒はとて多く、世界中からも生徒が沢山いて、すごくオープンでした。そんな学校生活で一番苦労したのは、なんと

も教職。大学院の課程では本職の単位が必修です。日本の大学でも正直かなり苦しい講義や課題を、フランス語で理解するのは日常生活もままならない私には到底無理な話でした。聴覚がこうなるとあーなって\* @%>...。年度末にはレポート提出!!そして教育実習!!やはり国は違えどやらないことにはないこととは一緒だなと思いました。(笑)でもそんな中でも、歌う機会も沢山やっています。レッスンや授業で歌うのはもちろん、学内や学外の声楽マスタークラスや室内楽など、実に様々な行事が常に待ちうけていて、パリにいて人に歌を聴いてもらわなかった日は、数える日ぐらいいしかなかったと。歌のクラスは、アジア人は私一人で最初は不安でしたがクラスの皆も温かく、わからな

環境の中で一般のお客様を含め、とにかく沢山の皆さんに毎日自分の歌に意見をいただけただけことは、留学生活の中で一番大きな成果だったのではと感じています。文化に直に触れ、住む人たちの心情を知り、同じ留学生たちと語り合える世界に通用するんだ!と感じることができたのは、2年終える直前の修了試験の頃でした。修了試験では自分でテーマを決め、選曲、演出、すべてをコーディネートトします。私は、どうしても日本の四季の美しさを表現したく、ヨーロッパの四季の歌をとりいれ、曲の年代もバラバラ、学内の作曲の友達に「いろはうた」の歌詞を使い作曲をお願いし、さらに曲間に季節の「俳句」を読みながら50分のプログラムを構成しました。この挑戦は、日本にいた頃の私にはすべての面においてやりきれなかった事だと思えます。この演奏で満場一致のレビューをいただいたことは私にとって、日本人の歌い手としてヨーロッパで学んだ一つの大きな自信につながり、奨学金をいただきこの2年間の留学生活を送ることができたことに今、心から感謝と喜びを感じております。

「ドイツの母クリスティーナ」



(09年助成・声楽)  
重島 清香  
(留学先・ミュンヘン音楽大学)

日本で師事していた先生の勧めで、フライブルク音楽大学を受験することになった4年前のこと。初めての海外生活を過ごすこととなったここフライブルクは、森と清流に恵まれたまるでメルヘンに出てくるような素敵な街です。ここでは私はクリスティーナという女性に出会います。彼女は先生の元同僚で、劇場の合唱団歌手でありながらも、自宅にアトリエを構え、絵を描き、また本も執筆するなど、多趣味なドイツ人です。当初私はドイツ語が全く話せず、孤独で心細い毎日

覚えてしまいました。が、語学学校で学ぶよりも実生活からよりドイツ語を習得し、会話が早く上達する結果となりました。毎週日曜日には彼女と街の大聖堂ミンスターへ向き、賛美歌を歌うことが楽しみでした。静かな中パインオルガンが響く光景は、ヨーロッパに居ることを実感し、心を落ち着かせる最高の場所でした。音楽を勉強することは勿論のこと、彼女の元で生活した時間はかけがえのないものとなりました。ここで地元の音楽家や彼女の友人達と交流できたことは、私がドイツで生活を始める良いスタートとなりました。ドイツで生活をしていく上で、彼女から大切な事を教わりました。分からないことをそのままにするのではなく、何か言葉を発すると必ず人は助けてくれる、そのために常に笑顔絶やさない。彼女自身はまさにこの言葉通りの人であり、万人に愛される存在です。私はこの言葉を常に頭に置き、それからの充実した留学期間を過ごすことが出来たのではないかと思います。その後、フライブルク音楽大学への入学は叶わず、街を離れることとなるのですが、クリスティーナとは頻りに連絡を取り合い、困ったときには相談にのっ

てくれます。休みには彼女を再び訪れ、夏には水泳やピクニックに出かけ、クリスマスにはクッキーを焼き、共に祝い、ご馳走を食べます。クリステイーナは私のドイツの母です。

「全てがラッキーだと信じて」



(09年助成・ピアノ)  
松本 伸章  
(留学先・フライブルク音楽大学)

僕のドイツでの生活は、最初からかなり大変な状況にありました。

入試に合格した学生は現地で部屋を決めてから帰る事を知らず、そのまま諸手続きのため一時帰国してしまいました。いざ出発！という時になって「あ、部屋・・。」と思い出し、慌てて部屋探しを始めました。フライブルクでは、人口に対し建物数が少なく、ミュンヘン、ハンブルクに次いで、ドイツで三番目に部屋探しが困難な街とされています。

学生寮は山のようにある

のですが、競争倍率が異常に高く、日本出発前に二十件程申込みましたが、全てダメでした。「行くしかない！」と意を決して渡独、するとある方の情報でトントントン拍子で初日に部屋が決まり、師匠も「フライブルクで一日で部屋が決まるなんて」と驚愕されていました。入学後に色々な学生と当地の家事情を話していくうちに、どれだけ自分の(悪)運が強かったのかに気付く羽目になりました。

その後、すぐに語学学校に入学し、3週間経ち、何と校長が学費を持ち逃げしたため、倒産してしまうというドラマの様な出来事が起こりました。不幸中の幸いで1週間ずつ学費を払うコースを選択していたため、被害は殆どありませんでした。中には三カ月や半年分支払っていた子も沢山いて、異国から来た境遇は同じです。何とも言えない辛い気持ちになったものです。

語学学校に通えなくなっただけで、気休めに持参した参考書が大活躍です。最初のうちは三冊の参考書を繰り返し勉強しました。また、音大ではレッスンを週一回ありましたので、予めこれを話したいという事を決め、日本語で考え、それをドイツ語に書き起し、暗記し、レッスン前に話

す・・・という作業を繰り返しました。

日本人には話す間違えてはいけない、という感覚があります。欧米人は取り敢えず口に出してみる、例え間違っていたとしても自ら何かを発信します。少しづつ生活に慣れてきた頃、元々の字体の違いはあれど、それが日本人と欧米人との語学習得スピードの違いではないかと感じ始めました。僕は急にあと、「せっかく口があるのだからどんどん喋らないと勿体ない！」と変な勿体ない根性に駆られ、その日を境に線が吹っ切れたように何かを発信し続けました。控え目な日本人は、「ドイツ語が話せますか?」と聞かれると「Ja, aber ein bisschen (はい、でも少し)」と答える人が結構います。

ところが外国人はそんな事はありません! 僕の周りにいた外国人は、どんなに拙くて間違っていたとしても構わないし、満面の笑みで「はい」と答えます。「話す」という意味のベクトルが、日本人とは少し違う方向に向いているかもしれない、コミュニケーションという部分でより深く深い意味なのかも知れないと感じました。だからこそ、自分も間違いに恐れなくなつたのかな、と。

語学とのそんな戦いの繰り返しであったという間に月日は過ぎて、完全帰国間際はとてつもない帰国ブルーに襲われていた僕は、お世話になったドイツ人から「君のドイツ語はよく変にもいいよ!」と褒めて貰いました。お世辞でも嬉しいものの「でも全然パーフェクトじゃないし、判らない単語だって沢山ある」と言うと、「どうしてパーフェクトにする必要がある? 僕たちですら若い子たちが話すドイツ語はさっぱり判らないことが沢山ある。彼らより君たち外国人が話すドイツ語の方がよっぽど判り易い。」と言われ、「そうだ、チョベリバとかチョベリグという類の言葉が、知らないだけでドイツ語にもあるかも知れない」と思い、その言葉に優しく包まれ、心が自然に穏やかになるのを感じたものです。

いつもそのような親切な人達に囲まれながら、あまり取り乱す事もなく落ち着いた勉強が出来た留学生生活、僕は本当にラッキーだっただけかも知れません。最初の部屋探しに始まり、財団から助成して頂いた事、そして勿体ない根性からただただコミュニケーションを図り、そこからまたヨーロッパ各地で多くの演奏機会に恵まれ、多くの人達と出会い、美味しい物と美味しいお酒に出会い、知らない

かった新しい世界を見られた事、無事に日本に帰国出来た事。帰国して半年以上経ってもまだ全てが新鮮過ぎて、思い出という域に達していないのが事実です。

だからこそ、ドイツでの記憶がいつまでも色褪せないように、今後の日本での生活も自分を取り巻く全てがラッキーだと信じて、そして焦らずに等身大の自分と向き合い、全てのモノに感謝しながら生きて行きたいと思っています。今年の活動としては、故郷の宮崎でのソロリサイタルや、地域アウトリーチ等の予定があり、こちらの方も自分らしく演奏できればと思います。

「日本人としての自覚、自信を持つ事」



(09年助成・ヴァイオリン)  
三浦 文彰  
(留学先・私立音楽大学)

オーストリア、ウィーン

での留学生活が始まってから2年が経ちました。

僕は2009年の9月からヨーロッパでの生活を始めたが、その1ヶ月後の10月にはハノーファー国際コンクールで優勝し、演奏活動の場が広がり、沢山の人々との出会いがあり、振り返ってみればとても充実した2年間でした。

日本では僕は家事を全くしたことがなかったのですが、生活は戸惑いの連続でした。こんな素晴らしい街に住めるのか！という気持ちと同時に、不安も同じくらい大きかったです。そこで僕は一人でいる事が嫌いなので、外に出て沢山の外国人の友達を作りました。みんな一人ひとりが強い個性をもっている、と思ったのが最初の印象で慣れも必要でしたが面白く思いました。一つ信じられない事件も起きました。2010年2月、僕はイスラエルのエイラトというところでの音楽祭に行く事になっていました。そしてイスラエルへ飛ぶ前日の夜、僕はコートのポケットに入れていた財布を盗まれました。財布にはパスポートも一緒に入れていました。これはもうどうしようもないと一人でパニックになり、とりあえず警察に被害届を出しに行きました。出発をあきらめて

いた朝に日本大使館に一応はきいてみようかと行ってみると、オフィスの電話が鳴り、奇跡的に僕の財布が見つかつたとの連絡が来たのです。そこにはパスポートもしつかり入っていたので、す！現金とカードはなくなくなってしまったもの、これはまさしく奇跡だと思えました。無事にイスラエルへ出発できたのでした。

素晴らしい出会いもいくつかありました。

今では弟のようにかわいがってもらっているジュリアン・ラクリンは僕のヒーローであるヴァイオリニスト、小さい頃から共演するのが憧れであったピアニストのイタマール・ゴラン、現代の巨匠チェリスタのミツシャ・マイスキー。そんな素晴らしい音楽家の方々と音楽をするのだけではなく、日常的な時間を共にする機会もありました。今の僕は沢山の人間に影響されて、常に刺激的な時間を過ごせているのを実感し、出会いに感謝をしています。やはり海外では、いかにコミュニケーションがうまくとれるかという事が何よりも大事なのではないかと思いました。様々な国の人々と接しているうちに、日本人は良いところが沢山あると思えました。日本人は恥ずかしがりやで静かなイメージがもちろんありま

すが、外国人にも日本人に対する尊敬があるという事を感じることも沢山ありました。日本人らしさを活かしながら、自分を閉じずにオープンな生活をしていく事によって有意義な留学生活が過ごせるのではないかと思います。

「2回目のパリの冬を迎えて」



(09年助成・フルート) 上野 星矢 (留学先・パリ国立高等音楽院)

フランスへ住み始めてから早2年が経ち、パリで3回目の冬を迎えました。暖かいワインがおいしい季節です。

毎日学校で先生や仲間と過ごす時間は本当に心地良く、そして刺激とスリルで溢れていて、何だか冒険でもしているような気分です。さらに昨年は、ヨーロッパで国際コンクールを沢山受けましたので(ポーランド、ルーマニア、フランス、ドイツ)、本当に行く所行く所で人種も違う、言葉も通

じない、道も分からないという場面が多々ありました。でもそういう時にこそ本当に自分から心を開いて人とコミュニケーションを取る事がいかに大切か、そしてそれがどんなに楽しい事かということに気が付きました。これって、音楽にとっても大事なことでと思うんです。そういう意味でもこれから留学される方は是非、もし最初は言葉がしゃべれなくても積極的に現地の人とコミュニケーションを取るようにしていただけたら良いと思います！(僕はよくスパーや本屋さんで、店員さんにフランス語を教えてもらっています。笑)

そして是非、現地で友人を沢山作っていただきたいです。こちらから話しかけてというのは結構勇気のいることですが、意外に向うのを待っていたりするところが多いのです！

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者(作曲部門)

日本音楽コンクールの作曲部門は、現在活躍中の作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう財団発足の91年度から同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」(賞金50万円)を寄託し、これまでに次の方々を受賞させています。

91年度 (第60回)	山洞 智 (敬称略)
92年度 (第61回)	伊佐治 直
93年度 (第62回)	藤満 健
94年度 (第63回)	原田 敬子
95年度 (第64回)	伊佐治 直
96年度 (第65回)	望月 京
97年度 (第66回)	若林 千春
98年度 (第67回)	なかにし あかね
99年度 (第68回)	大場 陽子
00年度 (第69回)	三浦 則子
01年度 (第70回)	小野 貴史
02年度 (第71回)	名倉 明子
03年度 (第72回)	朴 銀荷
04年度 (第73回)	中村 寛
05年度 (第74回)	宮沢 一人
06年度 (第75回)	横島 浩
07年度 (第76回)	篠田 昌伸
08年度 (第77回)	山根明季子
09年度 (第78回)	稲森安太己
10年度 (第79回)	江原 修
11年度 (第80回)	中辻小百合
	魚路 恭子



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

鈴木 優子

(打楽器・メーアブッシュ在)

昨年9月に、ドイツ・ケルン市立劇場の新作演劇の初演に参加しました。オーケストラのリハーサルという設定で、役者が楽器を演奏し、演奏家も演技をする舞台です。

好評を博して、今後毎月4、5回の公演が予定されています。

今年は4月にケルンのオペラ劇場の企画で、子ども向けのオペラの演奏を担当します。

1993年度助成

横田 みぎわ

(声楽)

小さな子どもたちに「歌声の響き」を教えると言う

こと。「必ずここまでは習得させることができる」というラインを、これまで超えられずにいました。昨年、初めてこれを超えることができました。100人ほどの子どもたちの、高音から低音までの美しい響きを保った歌声を聴くことができました。

教師としての成長を感じています。

1994年度助成

樋口 あゆ子

(ピアノ)

昨年の私の音楽活動は、コンサート年間50回、7月よりラジオFM横浜「毎・土18・30」45ピアノワイナリー響きのクラシック」司会レギュラー開始、8月新譜CD日本コロムビアDENON「ラフマニノフ、ガーシュイン、ベトナム民謡(世界初録音)」をリリースしました。

今年も引き続き、以上の活動を続けて行きます。

2004年から開始したベトナムでの音楽家活動も早7年半に入り、日越両政府の方々より支援・後援をいただながら、地道

に続けております。これから、世界は益々アジアの時代にシフトして行くと思えますので、アジアの音楽を志す学生達のためにも、一音楽家として、貢献させていだけたく所存です。

財団からの留学生の皆様も、御自分の夢に向かって頑張ってくださいね。  
 <HP><http://homepage2.nifty.com/ayuko/>

マリア・アヤ・アシュリー

(ヴァイオリン・ボン在)

手の故障が治って一年、オーケストラでもだんだん前と同じに弾けるようになり、感謝しています。グループの皆さんの協力がなければ、ここまで来れなかったと思います。今は前向きに考えられるようになり、3月ごろから友人と、ピアノトリオの練習に入る予定です。現在住んでいるボンから少しずつでも、活動の範囲を広げていけたらと思っています。やはり一番幸せなのは、室内楽をする時間です。

神田 寛明

(フルート)

かつて息子が通っていた

幼稚園(転居したので二カ所)で年一回開催するコンサートを続けています。毎回ゲストを招いての室内楽プログラムで、昨年は東京藝大の学生に木管五重奏を編成してもらい、クラシックからアニメ主題歌、幼稚園の歌など演奏しました。僕は司会に専念するつもりでしたが、せっかくの機会なのでフルート2本のためのヴァルトゥオーゾ作品の伴奏を、木管四重奏にアレンジして学生達と一緒に演奏しました。一時間ほどのコンサートでも、準備はなかなか大変です。それでも子供や父兄の嬉しそうな顔を見ると、スケジュールをやり繰りして駆けつけてしまいます。もうすぐ下の息子が幼稚園に入るので、まだしばらく続きそうです。

(NHK交響楽団首席フルート奏者。アジア・フルート連盟常任理事)

1995年度助成

大井 浩明

(ピアノ)

昨年秋には、富ヶ谷の白寿ホールで、戦後前衛ピアノ音楽の連続リサイタル公

演を行いました。没後10周年のクセナキスに始まり、没後5周年のリゲティとシュツトクハウゼン、いまだに現役のブーレーズ、それに韓国の4世代の作曲家たちの全ピアノ作品です。思い返せば、これらのレパートリーを集中的に取り上げるのは、QOL財団の海外音楽コンクール助成制度でガウデアムス国際コンクールに参加して以来、実に15年ぶりとなります。

大森 潤子

(ヴァイオリン)

昨年5月、札幌交響楽団は50周年欧州ツアーを敢行し、独・英・伊各国の人々から、日本の復興への激励を受けました。

個人的には、被災地にこう中で、演奏家であるからこそできる事があるということを認識させて頂け、現在、自分が元気に活動させて頂いている状況を、改めて有難く感じています。

今年も、オケ、札幌で立ち上げた九重奏団など室内楽公演、アウトリーチほか、復興への思いを常に念頭に置き活動していくつもりです。

玉井 葉採

(ヴァイオリン)

昨年夏は、ヨーロッパで音楽祭出演のあと、久しぶりにのんびり旅行をしました。オランダ・ベルギー・ドイツでは留学中にお世話になった懐かしい方々や友人に再会でき、改めて充実した留学生活を送れたことに感謝の念を強く持ちました。有難うございました。あの時間があったからこそ今があり、その源泉を大事にしなから今年も前へ進みたいと思います。

1999年度助成

磯 絵里子

(ヴァイオリン)

昨年は東日本大震災という未曾有の出来事があり、中止になる演奏会も多く、私たち音楽家も色々と考えさせられる一年でした。音楽をすることで、震災に遭われた方々の心を癒す一助になることに思い至り、精力的に東北の病院、小、中学校、ホールで演奏する機会が持て、明治安田生命のチャリティコンサートにも出演することができ、改めて音楽の力を実感すること

ができたのは、今後の演奏活動の支えの一つになると思っています。

神谷未穂とのデュオ・ブリマのデビュー10周年コンサートを開催し、長いスパンで作りに上げる喜びを感じられました。ソロ活動の他に、アクトリニティや、その他の室内楽での演奏会も多くあり、改めてアンサンブルの楽しさを味わいました。FMヨコハマのクラシック番組のパーソナリティも2年目となり、様々な視点で音楽界を見たり語ったりできる機会が、とてもよい経験となっています。

今年からは新年から東フィル等のオーケストラと協奏曲の共演があり、また昨年引き続き、Concert for KIDSで各地を訪れる予定です。そして、デビュー10周年を記念して始まった磯絵里子ヴァイオリンリサイタルシリーズのVol.3が、3月10日にヤマハホールで開催されます！私の今一番興味のある1920年代の作品を、大先輩である練木繁夫さんと共演できることも楽しみにしています。

して過ごす核になるところを真剣に探して、有意義な留学生生活を満喫してくださいます。年を重ねるうちに、なんと貴重な時間だったのだらうと実感します。

私の演奏会や活動は下記HPまたはブログで新着スケジュールを公開しております！  
<http://www.34-net.com/eriko>  
<http://yaplog.jp/iso-diary/>

1997年度助成

山崎 貴子

(ヴァイオリン)

昨年4月、男の子を出産しました。生活のリズムも価値観もがらりと変わりましたが、家族が増えた喜びや母になった喜びは、何にも代えがたいものです。主人や、時々遠くに住む(九州とフランス)祖父母の助けを得ながら、音楽活動も何とかペースを元に戻しつつあります(練習時間を何とか捻出し・・・)。小さいながらも一生懸命に自己表現する健気な息子を目の前に、音楽への感動が深まるこの頃です。それにしても、学生時代、恩師に「今の勉強(練習)が将来の貯金！」と

1998年度助成

新垣 裕子

(ヴァイオリン・スイス在)

言われたことを改めて思い出します！今年も、その「貯金」の補充をしつつ、藝大での後進の指導、紀尾井シンフォニエッタ東京やクアルテットアーニマの活動を中心に、いい音楽が出来るように頑張っていると思えます。留学生生活を満喫なさっている皆さん、たくさん良い貯金をしてください！

私の所属しているチューリッヒ歌劇場管弦楽団には、1997年より合計15名のオーケストラ研修生がいます。試験時の年齢制限は26歳で、研修期間は2年間。団員と一緒にオペラを弾きながら勉強していくシステムです。研修中はアパートが提供される他に奨学金も支給され、首席奏者との個人レッスン、室内楽のレッスン、そしてオーケストラ入団試験用のトレーニングなどを中心とした内容となっています。また、同館でのオペラ公演をすべて無料で鑑賞出来ます。オーケストラの魅力、オペラの魅力を満

島田 真千子

(ヴァイオリン)

昨年3月の東日本大震災にて被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

震災からは、大自然の驚異や、人間や音楽の力など、改めて痛感いたしました。

今年、1月にセントラル愛知響の定期演奏会でベートーヴェンの協奏曲を共演させていただくのを皮切りに、小澤征爾氏指揮での水戸室内管やサイトウキネンオーケストラへの参加、室内楽やリサイタル等、予定しております。

助成やご支援を頂いてここまで来られた事への感謝を、音楽家として社会に還元して行きたいと思っております。

<HP><http://machikoshi.mada.com/>

1999年度助成

田邊 織恵

(声楽)

昨年から地元の大学で講師として働きながら、オペラの年として、7月に「魔笛」パパゲーナ、「ドン・ジョヴァンニ」ゼルリーナ、9月「妖精ヴェイトリ」アンナ、12月「電話」ルーシー、「アマールと夜の訪問者」アマール、今年1月「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナと新しい役に多く出演することができました。

これからの予定としては、「カルメン」ミカエラと「イール カンピエツロ」ガスパリーナの出演が決まっています。

大好きなオペラに浸ることができ、忙しい毎日ですが、今、とても幸せです!!

大谷 玲子

(ヴァイオリン)

昨年9月に、セカンドアルバムCD「Polonaise (ポロネーズ)」、ピアノ岡元麻子)をリリースいたしました。ルトスワフスキ、シマノ

フスキ、ヴィエニャフスキの、ポーランドの作曲家たちによる魅力的な小品を収録しています。ファーストアルバムCD「イザイ..無伴奏ヴァイオリンソナタ全6曲」と同じく、ナミ・レコードからのリリースです。ヴィエニャフスキ国際コンクール最高位賞入賞から15年の成長をお聴きいただければ幸いです。

2000年度助成

宮部 小牧

(声楽)

この原稿を書く時期になると、ああ、1年経ったんだなあとその年を振り返るようになりまし。私事ですが、昨年夏に第一子を出産し、楽しく子育てをしています。みるみるうちに成長する生命の力に感動を覚える日々です。

子守唄は何かいいかなと思っていました。口ずさみやすく、優しく朗らかな内容の「うた」を自然と歌っています。歌というものの源、原点に思いが至ります。

諸田 広美

(声楽)

昨年はオペラ出演の機会に恵まれた年でした。春は宮本亜門さん演出の二期会創立60周年公演「フィガロの結婚」(二期会の記念すべき年に出演でき嬉しかったです)、夏は日本で本格的舞台で歌うのが夢だった「カルメン」タイトルロールなどです。また、外国人指揮者との共演にも恵まれ、「フィガロの結婚」ではデイヴィス氏と、トラエッタ作曲「スターバト・マター」日本初演ではクレメンテ氏と、「神々の黄昏」ではハンマー氏とそれぞれ共演しました。

昨年から祈りと愛をテーマにリサイタル・シリーズも開始しました。ライブワークとして、これからも定期的に行っていければと思います。今年も引き続き精力的に活動していきたいです。

上野 真理

(ヴァイオリン)

帰国してからの時間の方がすっきり長くなりました。日本の音楽教育のレベルの高さを率直に感じ、また才能ある演奏家の方々と

共演させていただく機会をとても光栄に思っています。逆に、帰国後の方が、自分を見つめなおすきっかけとなりました。留学させていただけただけで、音楽家として尊敬する先生方と演奏させていただけると感謝し、活動をさせていただけたいと思います。

昨年度から、公共ホール支援事業の登録アーティストとして演奏しております。

神谷 未穂

(ヴァイオリン)

一昨年9月に就任した、仙台フィルのコンマスとしての活動が半年経ち、少し慣れてきた頃の3月11日、東日本大震災の震度6強の揺れを、仙台フィルの根拠地・青年文化センターで体感しました。

あまりの揺れの凄さに、天井から何か落ちてきたら、楽器が弾けなくなるかもしれない、と思うほどでしたが、スタッフの的確な判断で避難することが出来、幸いにも、メンバー、楽器共々無事でした。

数ヶ月間も通常のコンサートがキャンセルになり、先行きの見えない不安や、

辛い思いもしましたが、早く音楽で被災地を元氣付けていきたいと、仙台フィルでは、音楽の力による復興センターを立ち上げ、震災のすぐ後、3月中から被災地(避難所・学校等)での活動を始めました(11月初めまでこの活動は200回を超えました)。

この活動には、全国、世界から沢山の方々のご支援を頂いております。明治安田クオリティオブライフ文化財団で交友がある音楽家の皆様にも、温かなメッセージ、ご支援を沢山頂きまし。この誌面をお借りして、心からお礼申し上げます。どうも有難うございました。復興には何年もかかりそうな大きな被害ですので、これからも長い目で被災地を応援していただけたら、嬉しいです。演奏出来る喜び、音楽の持つ力の大きさを、今まで以上に感じながら活動しています(従姉・磯絵里子とのデュオプリマは、おかげ様でデビュー10周年を迎えました。記念CD「デュオイズム」をどうぞよろしくお願いたします)。

<HP><http://www.yaplog.jp/miho1017/>

シユレイフアー 弓子

(ハーブ・ガラス在)

昨年は世界中で様々な天災に見舞われ、ニュースが飛び交い、胸を痛めることが多くありました。私自身、数年前にマイアミでハリケーンに被災した経験も胸に蘇り、海外にいる日本人として何が出来るものかと、考えさせられました。ここガラスでは、日本への支援を熱心に勧めてくれる機関がいくつもあり、すぐ近くの公立の中学校では、一日で80万円相当の生徒からの寄付を募ったとのこと聞きました。この辛い試練から、日本がいかに世界中から大切にされ愛されているかを、身を持って感じるものが出来、また、互いを助け合い思い合う心、この当然に聞こえることが世界規模で行われる、その意義についても考えさせられると共に、日本人であることの誇り、私自身についても再確認した年となりました。被災地の一日も早い復興を、心より願ってやみません。

2001年度助成

川村 文雄

(ピアノ)

母校である桐朋学園大学で教鞭を執らせていただき4年目を迎えました。

未だに実感が沸かずいますが、初年度に受け持った生徒たちがこの春に卒業します。

教育活動をしながらコンサートを続けていくことの難しさを痛感する一方、どのような形であれ、音楽を生きる糧として、日々、勉強できることに心から感謝しています。

大石 将紀

(サクソフォン)

一昨年より財団法人地域創造の登録アーティストとして活動させていただき、アウトリーチなどを通して自分の音楽活動と社会との結びつきを考える大変貴重な機会となりました。まだまだ試行錯誤しています。また、ブルーオーロラ・サクソフォンカルテットを結成し、こちらでもこれから各地でコンサートを開催させていただく予定です。

2004年度助成

富平 安希子

(声楽)

長女はあつという間に1歳になり、ますます目が離せなくなりりましたが、成長に目を細める毎日です。育児をする中での演奏活動は練習時間の確保も容易ではありませんが、その中でお声をかけていただいたりして少しずつですが仕事にも復帰しております。今後も舞台上に立てる機会を多くいただけるよう、周りのサポートに感謝しながら、そして大いに甘えながら！オーディションなどにも挑戦していこうと思っております。

杉村 香奈

(ヴァイオリン・ベルリン在)

昨年3月より、住まいをベルリンに移し弦楽四重奏をスタートさせています。

他にもピアノ五重奏、四重奏、トリオなど、室内楽に重点を置いた活動をしつつ、北ドイツ放送響等オーケストラにもゲスト・コンサートマスター等で参加。また、現代を代表する作曲家の一人、ソフィア・グバイド

リーナの生誕80周年を祝うフェスティバルにてピアノ、コントラバスとヴィオラのトリオを演奏し、好評を得ました。

2005年度助成

臼木 あい

(声楽)

東京藝大の博士課程に在籍しながら演奏活動を行い、昨年4月からは上野学園大学の非常勤講師を務めさせていただくようになりました。私もまだまだ勉強中の身ですが、学生から学ぶ事は驚くほどに多く、とても充実した毎日です。

昨年は能楽堂で狂言スタイルによるバロックオペラに出演させていただいたり、新国立劇場尼崎鑑賞教室公演「愛の妙薬」でアディーナ役を歌わせていただきました。

今年は藝大博士課程を卒業するため、M・ハイドンとモーツァルトのレクイエムに焦点を当てた論文を執筆する予定です。

佐野 隆哉

(ピアノ)

帰国より約1年、向うで

の生活との大きな違いに戸惑いつつも、何とか順応できるようなと足掻く毎日です。幸いなことに、昨年4月からは東京藝術大学、国立音楽大学で後進の指導にもあたり、新しい刺激を受けています。日本はとにかく時の流れのスピードが速い！充実した日々を送れるように、地に足をつけた活動をしたいたいと思っております。

横坂 源

(チェロ・シュトゥットガルト在)

シュトゥットガルトの町は一つの盆地でできているため、ちょうどこの時期になると山の上にある家へ帰る途中、寒さでびんと張り詰めた空気の中たくさんの星を楽しむことが出来ます。

昨年はオーケストラや室内楽、ソロと幅広く勉強させていただいたので、その経験から一回り成長した姿を皆様にお見せできたらと思っています。

特に今年は、エルガーのチェロコンチェルトなど個人的に大好きなプログラムを、日本の皆様の前で演奏させていただけることになっていたのでとても楽しみにしています。

遠藤 真理

(チェロ)

昨年、コンサートは、コンチェルト、ピアノトリオ、ソロと活動させていただきました。

震災の日には、山形交響楽団とのコンチェルトが山形で予定されていきました。GP最中に発生した大きな揺れのためコンサートは中止になり、東京に戻ることもできずに数日間山形で過ごしました。その後も出来る限りのチャリテイコンサートには出演させていたでいています。今年も精一杯頑張りたいです。

2006年度助成

白根 亜紀

(声楽・パリ在)

昨年7月15日に、地元宮崎で初の一時帰国リサイタルを開催しました。アリアやフランス・日本歌曲に子守唄まで、今の自分をそのまま出せるプログラムに挑みました。今年4月には、パリ・シャトレ劇場にて現代オペラのコーラスに参加予定のほか、1歳の息子の育児と並行してその他の演奏活動に取組みます。

佐藤 卓史

(ピアノ・ウィーン在)

昨年はイタリアのカントウ国際コンクールとメンデルスゾーン国際コンクールで、それぞれ最高位を受賞しました。5年間に学したハノーファー音楽演劇メディア大学を昨秋終了し、現在はウィーン国立音楽芸術大学で勉強を続けています。ヨーロッパ・日本での演奏活動も引き続き行っています。

HP><http://www.takashisato.jp/>

2007年度助成

中村 恵理

(声楽・ミュンヘン在)

バイエルン州立劇場にて2年目のシーズンが始まりました。昨年は同歌劇場の日本公演に参加し、3年ぶりに日本でのオペラ出演が叶いました。また、ロンドン・フィルとロッシニの「スターバト・マーテル」にソプラノ・ソロで出演するなど、大変多忙な一年となりました。

今年の新演出「ニーベルングの指輪」にてヴォークリングデ、「トゥーランドット」のリユーをミュンヘンで歌い、年の後半はスペインでのデビューも控えております。

現場での経験が一番のレッスンと信じ、真摯に心ある音楽を追求して精進して参りたいと思います。

昨夏は、スイスで行われたinternational music academy in Switzerlandや、ルツェン音楽祭アカデミーなどに参加させていただきました。同年代の世界各地から集まった音楽家達と交流を深めることができました。またそれぞれ、小澤征爾氏、ピエール・ブーレーズ氏といった大変著名な音楽家からの指導を受けることができ、とても充実した時間を過ごした夏となりました。

平野 朝水

(チェロ・パリ在)

昨年は、私にとって初めてのソロCD「DEAR MARIAMBA」をリリースし、そのCDがレコード芸術誌において特選盤に選ばれました。その後、国内外を問わず演奏活動に励んでおります。マリンバはまだ一般的に認知度の低い楽器ですが、これからますますの新しい企画とともに演奏活動していきたいと考えております。

2008年度助成

クリスティン・木実・

ウィットマー

(声楽・オランダ在)

昨年はバツハなど宗教曲の本番と並行して、十七世紀の英コンソート音楽を演奏する機会にも度々与您っており、エリザベス一世の統治に伴う曲想の傾向や演奏解釈を学んでいます。舞曲にのせて女王への愛を歌ったり、一人九役で賑わう市場の情景を歌ったりと、歴史を散歩するかの様。数知れぬ素敵な曲を伝えていく上での探求の喜びは尽きません！

塚越 慎子

(マリンバ)

昨年は、私にとって初めてのソロCD「DEAR MARIAMBA」をリリースし、そのCDがレコード芸術誌において特選盤に選ばれました。その後、国内外を問わず演奏活動に励んでおります。マリンバはまだ一般的に認知度の低い楽器ですが、これからますますの新しい企画とともに演奏活動していきたいと考えております。

2009年度助成

金子 平

(クラリネット・リユーベック在)

ドイツ生活も7年目を迎えました。昨年8月下旬に行われた読売日本交響楽団のオーデイションに合格し、今年7月に帰国することが決まりました。ドイツの歌劇場では、有名なオペラから日本では上演されることの少ないオペラまでを日々経験することができ、帰国までのこの時間がとても貴重であることを改めて実感しています。

2010年度助成

高橋 さやか

(声楽・パリ在)

昨年の夏は、8月にドイツのサマーフェスティバル「魔笛」のパミーナを歌わせていただき、9月にはピアニストのダルトン・ポールドウイン先生とのCD録音、引き続き10月にはパリで先生とのリサイタルをさせていただきました。この3カ月間、プロの音楽家としての自分のあり方と向き合い葛藤しながらも、周りの素晴らしい音楽家達に励ま

され、本物の音楽を求めること、自分に捧げることに出来るこの環境に、心からの幸せを感じた最高の夏となりました。

多田 真理

(ピアノ・チューリヒ在) チューリヒは寒さが日に日に増していますが、クリスマスのイルミネーションが点灯し始め、楽しい季節になってきました。

先日、はじめてバレエを鑑賞し、体の使い方や空気の感じ方等、ピアノを弾くに当たりとても大切なことを勉強できたように思います。また、レッスンでは、より自分の意思に重きをおかれるようになり、客観的に自分を見つめる難しさに四苦八苦していますが、日々新しいことを学べることに感謝している毎日です。

酒井 有彩

(ピアノ・ベルリン在) ベルリンでの生活も一年半が経ちました。ベルリン

ファイルをはじめ、一流のアーティスト達の熱く活きた音楽は、私に沢山の刺激、喜び、活力を与えてくれます。この夏はフランスと日本で、三つのソロリサイタ

ルをさせていただきました。引き続き、音楽への憧れを、実力に変えられるよう、そして幅広く演奏の機会を増やせるよう、しっかりと精進していきたいと思えます。

小林 美樹

(ヴァイオリン・ウイーン在) 昨年10月、ポーランドで

ヴィニアスキー国際ヴァイオリンコンクールに参加し2位を受賞いたしました。審査委員長のヴェンゲロフさんのアイデアで今回からシステムが大きく変わり、本選まで4回の予選、曲数も増える等大変でしたが、多くの友人ができて本当に充実した2週間でした。ヴェンゲロフさんから「君の演奏に勇気をもらった」と言われたことがとても嬉しかったです。

2011年度助成

小林 大祐

(声楽)

最近目下、今年4月からのイタリア・ミラノへの留学に向けて準備中です。

イタリアへは高校生の時にコンクールの副賞で10日間研修旅行で行ったきりなので、ほぼ初めての留学に

なります。ビザや手続き、向うでの生活、もちろん歌の勉強をいかに充実させるためにしっかりと準備して春を迎えたいと思えます。

門間 信樹

(声楽) 私はまだ「留学準備」の段階で、語学を学んでいるところ

です。「言葉なんて飛び込んでしまえば何とかなる」という甘い文句がありますが、分からないことや不安なことがあるのは留学して間もない頃だと思います。オペラやコンサート稽古の合間に、英語の勉強をしています。

坂本 彩

(ピアノ・ベルリン在)

昨秋よりベルリン芸術大学での勉強が始まりました。

ドイツでは、レッスンにおいても友人間の会話においても自分の意見を求められ、戸惑うことも多いですが、貪欲に学ぼうとする同志の姿からは日々刺激を受けています。留学をより充実させるため、目下の目標はレパートリーの拡大と語学の向上です。夢に向かって日々精進しています。

永井 基慎

(ピアノ・パリ在)

大学に入学後渡仏してから、早いもので3ヶ月が過ぎました。自炊に苦戦しながらも、お陰様でパリでの毎日はこれまで以上に充実しております。パリは藝術と日常との距離が近く感じられる街です。私が思っていた以上に名演奏家と呼ばれるアーティストの公演が多いので、かなりの頻度でコンサートホールに足を運び、街のいたる所にある美術館にも訪れたりしながら、楽しんで藝術に触れております。

一方で学校では、今までに受けたことなかった室内楽や鍵盤和声の授業等全てが新鮮で興味深く、仏語の音楽用語に戸惑いながらも実りある時間を過ごせており嬉しく思っております。特に専門実技のレッスンは、本場の物を先生から直々に感じとれる機会なので、毎週のレッスンを非常に楽しみであるとともに、最高の喜びです。フランスから他のヨーロッパ諸国は地理的に近いので、フランス以外の色々な街に足を運び、異なった空気にも触れてみたいと思っております。

正戸 里佳

(ヴァイオリン・パリ在)

昨年10月から第三課程に進学し、何かと忙しい毎日です。第三課程では学校のシステムを利用して、自分のやりたい事を決定し、実現する事ができます。CDを作る、音楽会を開く、メディアに出演するなどの事も学校からの後押しにより可能です。私も担当秘書の方と話し合いながら、これからの音楽活動計画を決めている最中です。

黒金 寛行

(バス・トロンボーン)

今は準備に追われる毎日ですが、憧れであったベルリンの生活には期待に胸を膨らませるばかりです。また、一年間という短い勉強期間を思うと、身の引き締まる思いでもあります。現在のオーケストラでのプレイを、より深く、確実な理解と感性を伴ったものにするために、自分にとって留学の経験は必要不可欠なものと考えていましたので、この機会をより充実したものにできるよう努めてまいります。

「海外音楽研修」「海外音楽コンクール」助成対象者一覧

(敬称略)

助成対象者		助成対象者		助成対象者			
氏名	専攻	氏名	専攻	氏名	専攻		
<b>1991年度</b>							
久住庄一郎	声楽	泉良平	声楽	富平安希	声楽		
妻屋秀和	〃	増大田弥生子	ピアノ	中橋有起	ピアノ		
日紫澤惠美	ピアノ	高橋博奈	オルガン	脇岡洋平	ヴァイオリン		
大江友聖	ヴァイオリン	川村奈子	ヴァイオリン	梁杉美沙	〃		
千植葉純	〃	山崎貴子	〃	<b>2005年度</b>			
植村菜穂	〃	田中晶子(b)	〃	白木あ	声楽		
小松井玉	〃	早川さこ	ハーブ	金野聡	ピアノ		
斎藤久明	ギター	大伊藤寛	ギター	川村隆伸	ヴァイオリン		
鈴木大介	〃	黒木香保	クラリネット	横坂真	チェロ		
末次木優子	トロンボーン	豊嶋起久	声楽	遠藤真	〃		
鈴木優子	打楽器	増田のり	〃	<b>2006年度</b>			
<b>1992年度</b>							
佐野成宏	声楽	伊藤野のり	ピアノ	江田雅子	声楽		
揚原祥彦	ピアノ	新垣裕子	ヴァイオリン	石原妙	〃		
志茂征彦	〃	扇谷泰朋	〃	白根亜紀	〃		
田中晶子(a)	ヴァイオリン	野倉雅秋	〃	佐藤卓史	ピアノ		
伊藤亮太郎	〃	島田真千子	〃	鈴木真貴子	ヴァイオリン		
宮本恵人	〃	<b>1998年度</b>		朝吹園子	ヴィオラ		
飛澤浩	ヴァイオリン	黒嶋起久	声楽	<b>2007年度</b>			
富永佐恵子	チェロ	増田のり	〃	中村恵理	声楽		
安楽真理子	ハーブ	伊藤野のり	ピアノ	上江隼人	ピアノ		
早川りさこ	〃	野田清玲	〃	伊藤わか	チェロ		
梅津千恵子	打楽器	大谷玲明日香	ヴァイオリン	平野朝水	フルート		
<b>1993年度</b>							
横田みぎわ	声楽	瀬田晶子(b)	〃	渡邊玲	〃		
岡田将樹	ピアノ	瀬田晶子	〃	<b>2008年度</b>			
有森直樹	〃	清水英理子	〃	相田麻純	声楽		
九頭見香里奈	ヴァイオリン	<b>2000年度</b>		木嶋真優子	ヴァイオリン		
山本千尋	〃	宮部小牧	声楽	塚越慎子	打楽器		
斎藤千貴	チェロ	上野真穂	ヴァイオリン	<b>2009年度</b>			
萩原貴子	フルート	日下紗矢子	〃	盛田麻央	声楽		
岩井英二	テューバ	工藤すみれ	チェロ	重島清章	ピアノ		
<b>1994年度</b>							
樋口あゆ子	ピアノ	工藤すみれ	ヴァイオリン	松浦文彰	ヴァイオリン		
M.A.アシュリー	ヴァイオリン	中村創	ハーブ	上野星矢	フルート		
小林幸輝	〃	藤井香	ギター	金子平	クラリネット		
清水醒輝	〃	<b>2001年度</b>		<b>2010年度</b>			
磯絵里子	〃	山本美樹	声楽	高橋さやか	声楽		
中島慎加子	〃	呉承文	ピアノ	重島清真	ピアノ		
横山奈加子	〃	川村文雄	オルガン	多田真彩	ピアノ		
赤松奨	チェロ	椎名雄一郎	ヴァイオリン	酒井美樹	ヴァイオリン		
松岡みやび	ハーブ	日下紗矢子	〃	<b>2011年度</b>			
神田寛明	フルート	大石将紀	サクソフォン	小林大祐	声楽		
<b>1995年度</b>							
大井浩明	ピアノ	<b>2002年度</b>		門間信樹	ピアノ		
大森潤子	ヴァイオリン	柳原由香	声楽	坂本基	ピアノ		
志茂美都世	〃	長崎慶結	ピアノ	永井基里	ヴァイオリン		
玉井菜幸	〃	高田結匡	〃	正戸金	バス・トロンボーン		
石橋幸修	トランペット	高橋野沙	〃	(注) ・*は海外音楽コンクール助成対象者 (同助成は2003年度以降廃止) ・(a)と(b)とは同名の別人 ・○は2年連続申込し助成決定 (2009年度及び2010年度)			
<b>1996年度</b>							
小山麻穂	声楽	高杉和香	ヴァイオリン			(注) ・*は海外音楽コンクール助成対象者 (同助成は2003年度以降廃止) ・(a)と(b)とは同名の別人 ・○は2年連続申込し助成決定 (2009年度及び2010年度)	
磯絵里子	ヴァイオリン	高杉和香	〃				
上里英子	〃	高杉和香	チェロ				
清水有紀	〃	<b>2003年度</b>					
大谷玲子	ヴァイオリン	市原愛衣	声楽				
安藤裕美	ヴァイオリン	本山智恵	ピアノ				
篠川美生	チェロ	山本智恵	〃				
古川展隆	トランペット	山本智恵	ヴァイオリン				
中山隆	〃	武藤順	ヴァイオリン				